

平成30年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。



<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成30年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

平成30年4月17日（火）

4 調査の内容

(国語、数学、理科) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題（A） ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など 【国語A・数学A 各45分】 【理科 45分】 ※理科については、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う。	主として「活用」に関する問題（B） ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など 【国語B・数学B 各45分】
	児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【20分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
	生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	

本校の調査結果の概況

は全国平均正答率を上回ったもの

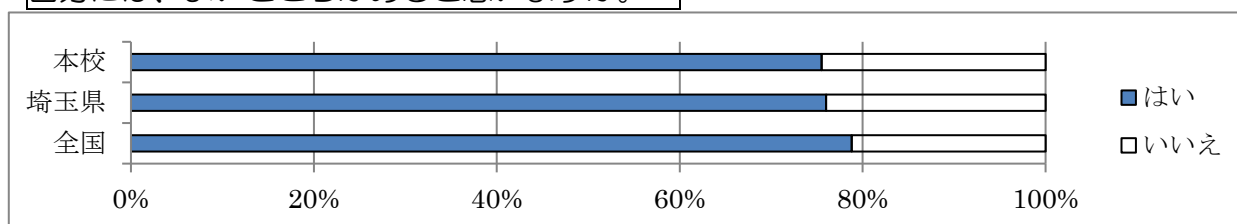
国語	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
話すこと・聞くこと	3	74.2%	74.2%	75.2%	3	75.3%	76.1%	76.6%
書くこと	4	72.7%	73.8%	73.9%	2	32.1%	30.9%	31.3%
読むこと	4	74.0%	75.4%	76.7%	6	53.4%	53.1%	53.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	73.0%	75.5%	76.5%	1	49.0%	49.6%	49.2%

数学	A（主として「知識」に関する問題）				B（主として「活用」に関する問題）			
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
数と式	12	71.9%	69.2%	71.1%	4	52.8%	50.9%	51.4%
図形	12	68.5%	68.7%	69.1%	3	47.9%	46.4%	46.7%
関数	8	50.0%	54.2%	55.5%	3	55.0%	52.8%	52.8%
資料の活用	4	63.6%	62.7%	63.5%	4	36.8%	37.5%	38.0%

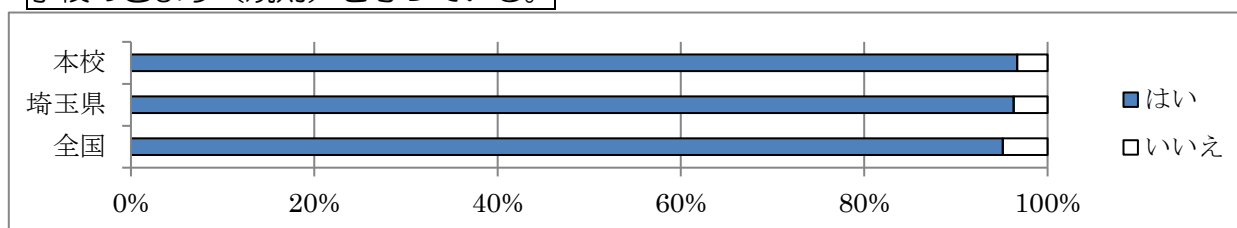
理科	「知識」・「活用」に関する問題			
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率	県平均正答率	全国平均正答率
物理的領域	7	79.5%	74.1%	74.4%
化学的領域	8	68.5%	63.4%	65.0%
生物的領域	6	72.7%	71.6%	72.5%
地学的領域	7	60.7%	56.7%	57.8%

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

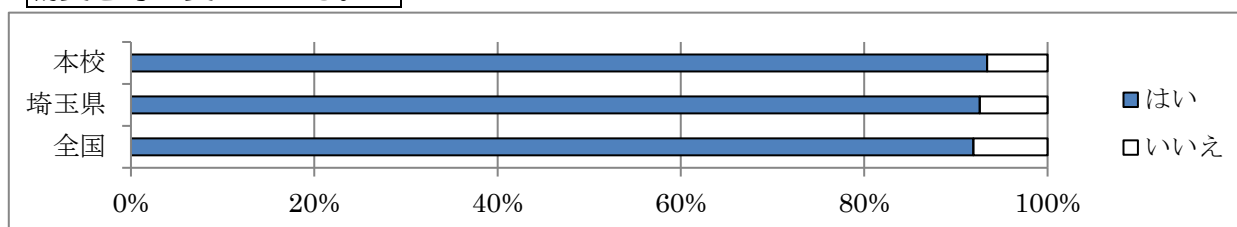
自分には、よいところがあると思いますか。



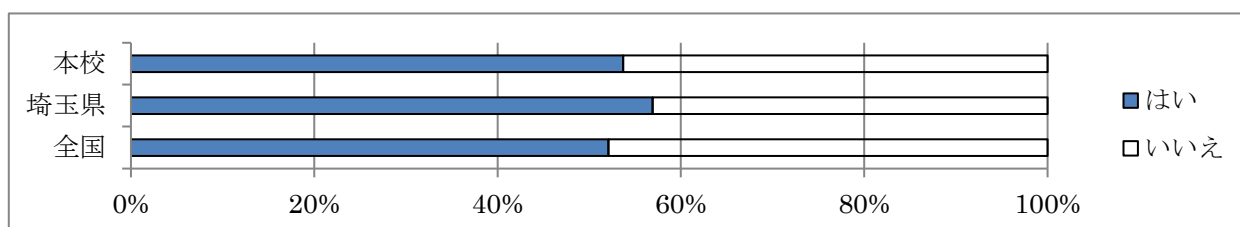
学校のきまり（規則）を守っている。



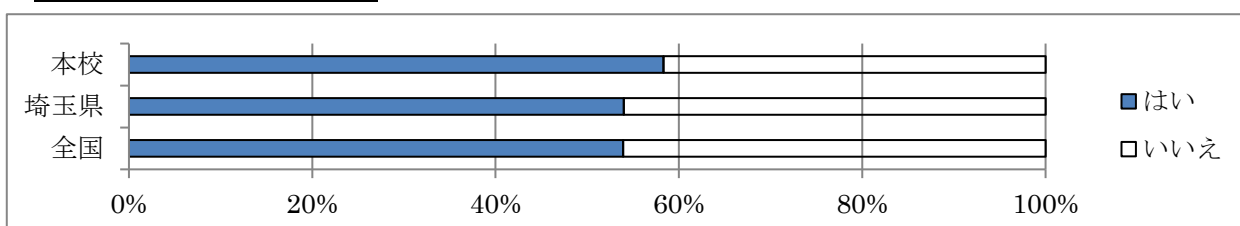
朝食を毎日食べている。



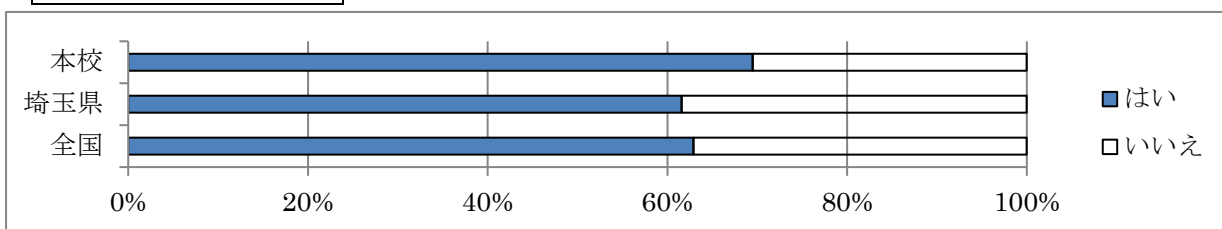
家で、自分で計画を立てて勉強している。



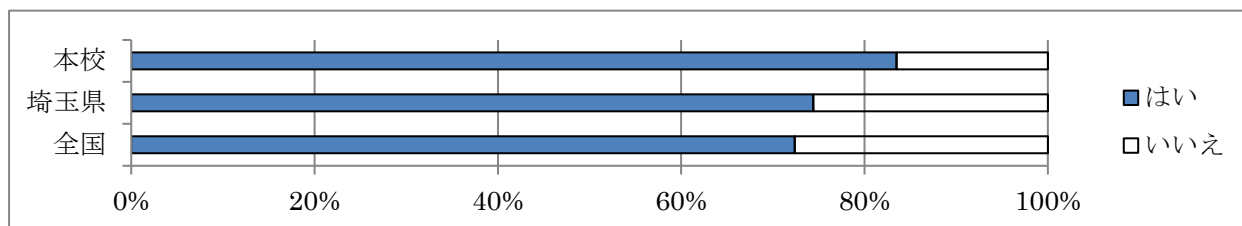
数学の勉強は好きだ。



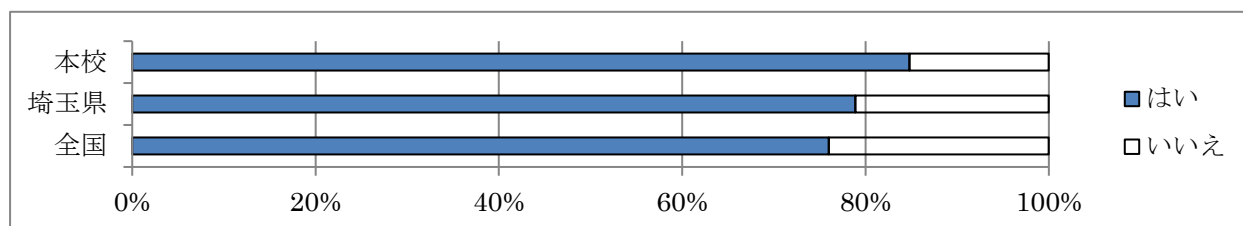
理科の勉強は好きだ。



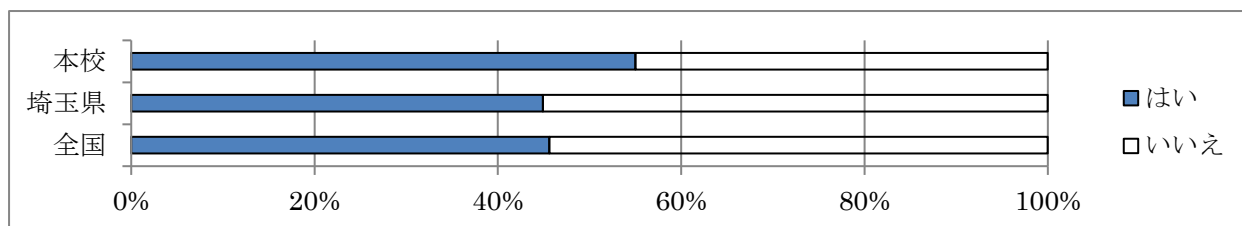
将来の目標や夢を持っている。



家の人と学校での出来事についての話をする。



今住んでいる地域の行事に参加している。



本校の調査結果の分析・考察

<国語A>

【領域別の分析】

《話すこと・聞くこと》では本校74.2%、全国75.2%とやや下回った。《書くこと》では本校72.7%、全国73.9%とやや下回った。《読むこと》では本校74.0%、全国76.7%と少し差が大きかった。《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》では本校73.7%、全国76.5%とこちらの差も大きかった。学習指導要領の領域等の平均正答率は、どの領域も7割を超し、バランスもとれていた。

どの区分でも全国を1～3%ほど下回る結果となったが、課題は「読むこと」「伝統的な言語文化の特質に関する事項」「短答式」である。言語についての知識が身についておらず、文章が的確に把握できていないと思われる。

【題別集計の結果の分析】

本校の正答率が低い問題は以下のとおりである。

- ・「伝えたい事実や事柄がわかりやすいように書く」59.6%
 - ・「文章の展開に即して情報を整理し内容を捉える」54.3%
 - ・「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」21.2%
 - ・「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」（短答式）13.2%
- 一方で「語句の意味を理解する」91.4と高い正答率であった。

表現されたものを注意深く読む、書かれたものから想像する、文の構成を把握しながら読むということに対して課題があるという実態が浮かび上がった。

【無解答の問題の分析】

全体的に無解答率は非常に低い中で、特に注目すべき問題は以下の通りである。

- ・「話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く」本校18.5%、全国13.3%
- ・「漢字の問題」全国より2～4%多い。
- ・『心を打たれた』を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、『誰（何）』の『どのような』ことに『心を打たれた』のかがわかるように書く」本校9.3%、全国6.5%

既習の漢字が身についていないことと、文の構造を理解するのに苦労している生徒がいることを念頭に置き、早急に授業を改善、実践しなければならないことがわかった。

【問題】

問題	8	一	1	ひもで <u>タバ</u> ねる。
正答				束
問題		一	2	先制点を <u>ユル</u> す。
正答				許

学習漢字の定着を図るため、今後、一層丁寧指導することと、家庭学習等で漢字練習の習慣が定着するよう粘り強く指導を継続していく。小テストの実施についても実施頻度を上げ、生徒の漢字への意識を高める工夫を進める。

無解答率	1	本校	15.9%
		全国	13.2%
	2	本校	23.2%
		全国	19.5%

【問題】

問題	8	四	1	言葉の意味として最も適切なものを選び、文末に用いた一文を書く。
正答				(例) 私は友人の勇氣ある行動に <u>心を打たれた。</u>

多種多様な慣用句を身に着けていくことは大変な時間がかかる。より多くの文章に触れながらも、言語学習の際に、多岐にわたって熟語や慣用句、ことわざ等について学習機会を増やし、豊かな言語環境を教師が整えていく。

無解答率（正しく意味を捉え短文を作る）

本校	9.3%
全国	6.5%

＜国語B＞

【領域別の分析】

《話すこと・聞くこと》本校75.3%、全国76.6%でわずかに下回った。《書くこと》本校32.1%、全国31.3%、わずかに上回った。《読むこと》本校53.4%、全国53.3%、ほぼ同率であった。《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》本校49.0%、全国49.2%。僅差であったが下回った。

- ・正答数が0問という生徒が一人でた。
- ・学習指導要領の領域等の平均正答率のバランスが良くなかった。

話すこと、聞くこと75.3%に対し、書くことが32.1%であった。

【平均正答率の比較】

本校 61.2% 埼玉県 61.2% 全国 61.2% 全国や県平均とほぼ同じ水準であった。

正答率の表を見ると、全国平均より高い項目もある。

- ・国語への関心 本校 51.7% 全国 50.3%
- ・書く能力 本校 32.1% 全国 31.3%
- ・記述式 本校 51.7% 全国 50.3%

問題別に見ると正答率が全国平均を上回ったのは9問中4問であった。

【課題】

- ・質問の意図を捉える 全国より－4%以下
 - ・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する 全国より－4%以下
 - ・登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる 全国より－2%以下
- 極端に正答率が低いわけではなかったが、小説の読み方に課題がある。正確に読み取れていない。
- ・短答式、記述式の問題が少なかったため、正答率が上がった。→書く・表現する力に課題

【問題】

問題 2 三 ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する

正答 イ
(全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことができたかを問いている)

本校 52.3% 全国 54.6%

発表者の説明を筋道を整えて整理できる力が不足していると考えられる。本文を目で追いながら文章の内容を柱となる単語・語句をメモ書きし、説明が終了した時点で、自身で再構成し、主旨を発表させる等の学習を積み重ねていく。

【問題】

問題 3 一 登場人物についての説明として適切なものを選択する

正答 ウ
(場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解しているか問いている)

本校 76.2% 全国 80.2%

複数の人物が登場するものは、そのつど誰の発言か、正確に記録を残す学習も効果があると思われる。

場面が変化した際の表記のきまりを基本的に抑える学習が必要である。段落が変わる、一行あくなどは、場面や登場人物、話し手等、主体者の変化があること等、抑えて学習するよう指導する。

<数学A>

【領域別】

数と式、資料の活用の領域では、県平均・全国平均を上回っている。一方、図形、関数の領域では、県平均・全国平均を下回った。特に、関数領域においては、県平均に対してマイナス4.2ポイント、全国平均に対してマイナス5.5ポイントと大幅に下回っている。問題別にみると、数量や図形などについての知識・理解を問う選択式の問題において正解率が下がっている。各単元における知識・理解の定着が課題である。技能問題における正解率は県平均・全国平均を上回っており、基本的な計算力はしっかりと身につけているといえる。

問題例【3（1）】

一次方程式 $6x - 3 = 9$ を次のように解きました。

$$6x - 3 = 9 \quad \cdots \cdots \text{①}$$

$$6x = 9 + 3 \quad \cdots \cdots \text{②}$$

$$6x = 12$$

$$x = 2$$

上の①の式から②の式へ変形してよい理由として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア ①の式の両辺に3をたしても等式は成り立つから、②の式へ変形してよい。
- イ ①の式の両辺から3をひいても等式は成り立つから、②の式へ変形してよい。
- ウ ①の式の両辺に3をかけても等式は成り立つから、②の式へ変形してよい。
- エ ①の式の両辺を3でわっても等式は成り立つから、②の式へ変形してよい。

正答 答え…ア

[出題の趣旨]

方程式を解く場面における等式の性質について理解しているかどうかをみる。

(数量や図形などについての知識・理解)

〈分析〉

- ・正答率 54.3% < 63.9% (埼玉県)
- ・無解答率 0%
- ・誤答としてエを選択している生徒が多いのは、 $6x = 12$ から $x = 2$ への変形と勘違いしているためであると考えられる。問題文を理解することに関しても、日ごろから意識させることが重要である。

問題例【9（1）】

比例 $y = 5x$ の x の値とそれに対応する y の値の関係について、下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア x の値と y の値の和は、いつも5である。

イ y の値から x の値をひいた差は、いつも5である。

ウ x の値と y の値の積は、いつも5である。

エ x の値が0でないとき、 y の値を x の値でわった

商は、いつも5である。

正答…エ

[出題の趣旨]

比例 $y = ax$ における比例定数 a の意味を理解しているかどうかをみる。

(数量や図形などについての知識・理解)

〈分析〉

- ・正答率 58.9% < 64.2% (埼玉県)
- ・無解答率 0.7%
- ・比例定数の意味をきちんと理解できていないため、正答率が下がっている。比例と反比例を比較したり、1次関数や関数 $y = ax^2$ を学習する際に既習事項を確認するなど、定着できるような手立てを工夫していく。
- ・誤答として、ア ($y = 2x + 6$) を選択している生徒が多い。 a の値とグラフの関連性を意識して指導していくことが重要である。

<数学B>

【領域別】

領域別にみると、数と式、図形、関数の領域については県平均・全国平均を上回っている。資料の整理の領域については、県平均・全国平均を若干下回っている。観点別にみると、数学的な技能を問う問題の正答率が下がっている。与えられた情報から問題解決に必要なものを選択し、処理するという部分が課題であると考えられる。

問題例【1（1）】

第一中学校では、昼の放送で音楽を流します。放送委員の拓真さんと葉月さんは、全校生徒300人を対象に、あらかじめ準備した8曲の中から流してほしい1曲を選ぶアンケートを実施しました。そして、回収した解答用紙の結果から、全校での順位の上位4曲を流すことにしました。下の表は、その解答用紙をもとにして、結果をまとめたものです。

アンケートの結果1

順位	曲	回答した生徒数（人）			
		1年生	2年生	3年生	全校
1位	A	16	19	20	55
2位	B	12	23	18	53
3位	C	15	17	20	52
4位	D	9	18	23	50
5位	E	16	8	5	29
6位	F	20	4	3	27
7位	G	8	7	6	21
8位	H	6	5	2	13
合計		102	101	97	300

（1）アンケートの結果1において、全校生徒300人に対する上位4曲のA、B、C、Dのいずれかを回答した生徒数の合計の割合を求めなさい。

正答…0.7

〔出題の趣旨〕

与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかどうかを見る。（数学的な技能）

〈分析〉

- ・正答率 49.0% < 55.2%（埼玉県）
- ・無解答率 12.6%
- ・誤答として、上位4曲の人数の合計210と回答している生徒が多くみられる。割合や確立、相対度数などの表し方などについても細かく指導していくことが必要である。

問題例【2（1）】

次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



（1）はじめの数が10のときの計算結果を求めなさい。

正答…28

〔出題の趣旨〕

問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。（数学的な技能）

〈分析〉

- ・正答率 86.8% < 89.9%（埼玉県）
- ・無解答率 4.6%
- ・正答率が高い問題ではあるが、県平均・全国平均と比較すると値が低い。正負の数の四則の計算は、すべての計算の基本となるので時間をかけて指導していく。

【3（2）】

列車のすれ違いは、A駅からの道のりが① kmの地点で1回、A駅からの道のりが② kmの地点で2回起こる。

太一さんが作ったグラフをもとに、上の



に当てはまる数をそれぞれ求めなさい。

正答… ①2 ②4

問題例〔出題の趣旨〕

グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができるかどうかを見る。

（数学的な見方や考え方）

〈分析〉

- ・正答率 84.8% > 78.4%（埼玉県）
- ・無解答率 6.6%
- ・県平均・全国平均と比較して最も正答率が上回った問題である。ダイアグラムを読み取り、列車の運行の様子を解釈する力はしっかりと備わっている。

＜理科＞

【領域別】

下記の領域別の結果より、すべての領域において、全国、埼玉県の平均を上回っている。

《物理的領域》では（本校79.5 > 全国74.4）主に電気で良い結果であった。

《化学的領域》では（本校68.5 > 全国65.0）主に化学変化のモデルで良い結果であった。

《生物的領域》では（本校72.7 > 全国72.5）

《地学的領域》では（本校60.7 > 全国57.8）

ただし、全体として地学領域の得点が低く、思考過程を重視した指導がより必要であると思われる。

問題例【4（3）】

「化学反応式のつくり方」をもとに「炎が赤い（酸素が不足している）ときの化学変化」を見直して□の中のモデルを修正しました。修正したモデルを書きなさい。

正答…2 ◎◎ ◎◎ ◎◎

〔出題の趣旨〕

化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる。(科学的な思考・表現)

〈分析〉

- ・正答率 62.3% > 45.9% (埼玉県)
- ・無解答率 12.6% > 18.5% (埼玉県)
- ・11%近くの生徒が、わからなくても、何かしら書こうとしていた。
- ・モデルを用いて、イメージを自分でつくる授業を行ってきた結果、正答率が高かったと思われる。

問題例【5（1）】

下線部の反応の経路を下のように示したとき、Xに適する語句を書きなさい。

目 → X 神経 → 脳・脊髓 → 運動神経 → 筋肉

正答…1、2 感覚、視覚

〔出題の趣旨〕

神経系の働きについての知識を身につけている。

(自然事象についての知識・理解)

〈分析〉

- ・正答率 42.4% < 52.5% (埼玉県)
- ・無解答率 1.3% > 7.1% (埼玉県)
- ・脳の近くであったために、35.1%の生徒が、「中枢神経」と解答していた。これは、授業で解説した図により、感覚神経、運動神経が、脊髓から出ているというイメージが強かったためと思われる。
- ・無解答率は県よりも大きく下回っている。誤答の生徒に対して、より知識の定着を図ることで正答率が上がるものと思われる。

<質問紙調査から>

【質問 12】 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか ※要因・今後の対応等 回答結果 <table data-bbox="207 425 774 593"> <tr> <td>そう<u>思う</u></td> <td>24.5 %</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばそう<u>思う</u></td> <td>39.7 %</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばそう<u>思わない</u></td> <td>24.5 %</td> </tr> <tr> <td>そう<u>思わない</u></td> <td>11.3 %</td> </tr> </table> <分析> 昨年度と比較して「<u>思う</u>」の合計は64.2%と0.1%伸びているが、その内訳は「そう思う」が-3.8%で、どちらかといえばそう思うが+3.9%増えている。生徒全員が家庭学習の習慣を確立するために行っている2ページ学習帳の取り組みが定着し、活用の効果についても理解していることがわかるが、毎日では出せないこともあると推察できる。生徒一人一人のさらなる学力の向上を目指し、学習指導と家庭のとの連携をさらに進めていく必要性を感じる。	そう <u>思う</u>	24.5 %	どちらかといえばそう <u>思う</u>	39.7 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	24.5 %	そう <u>思わない</u>	11.3 %	【質問 53】 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか ※要因・今後の対応等 回答結果 <table data-bbox="821 425 1380 593"> <tr> <td>そう<u>思う</u></td> <td>52.3 %</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばそう<u>思う</u></td> <td>39.7 %</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばそう<u>思わない</u></td> <td>6.6 %</td> </tr> <tr> <td>そう<u>思わない</u></td> <td>1.3 %</td> </tr> </table> <分析> 全国平均に比べ「そう思う」は19.9%も上回っており、「そう思わない」は5%も下回っている。これは本校における昨年度までの学校課題研究「確かな学力を育む指導方法の研究～言語活動による思考・表現の可視化を通して」の取り組みが要因と考えられる。特に基礎的な知識を基盤にして言語活動を手段とした、思考力向上を目指した指導方法を研究は、今年度以降も「考え、議論する」道徳に引き継がれており、さらなる向上を期待したい。	そう <u>思う</u>	52.3 %	どちらかといえばそう <u>思う</u>	39.7 %	どちらかといえばそう <u>思わない</u>	6.6 %	そう <u>思わない</u>	1.3 %
そう <u>思う</u>	24.5 %																
どちらかといえばそう <u>思う</u>	39.7 %																
どちらかといえばそう <u>思わない</u>	24.5 %																
そう <u>思わない</u>	11.3 %																
そう <u>思う</u>	52.3 %																
どちらかといえばそう <u>思う</u>	39.7 %																
どちらかといえばそう <u>思わない</u>	6.6 %																
そう <u>思わない</u>	1.3 %																

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>



1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

平成30年4月12日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
話すこと・聞くこと・書くこと	4	70.4%	69.6%	4	61.2%	67.9%	4	50.7%	51.4%
読むこと	9	49.0%	49.8%	9	52.1%	51.1%	9	73.9%	73.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	53.4%	54.8%	17	51.4%	55.1%	17	58.2%	57.8%

数学（内容は算数）	第1学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	11	52.8%	54.5%
量と測定	7	62.8%	65.9%
図形	7	51.6%	54.4%
数量関係	7	57.2%	59.6%

数学	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と式	14	50.3%	52.9%	12	64.7%	62.0%
図形	6	37.2%	38.5%	7	49.4%	55.1%
関数	6	61.8%	61.5%	7	58.8%	59.7%
資料の活用	6	50.2%	48.5%	6	56.4%	57.4%

<生徒への質問紙調査>（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、 は80%以上（%）

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	100.0	98.1	99.3
		98.7	97.3	96.9
	② 授業開始時刻	98.7	98.7	98.0
		98.3	97.5	97.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	92.4	98.7	94.0
		92.5	91.6	92.5
	④ 整理整頓	83.4	89.9	83.4
		86.3	85.6	84.5
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	88.7	92.3	90.3
		84.0	84.4	84.6
	⑥ 返事	93.7	92.9	95.9
		89.4	88.3	88.4
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	93.6	95.6	96.7
		92.6	90.7	91.9
	⑧ やさしい言葉づかい	91.7	92.5	95.9
		89.7	86.5	87.9
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	97.5	93.1	96.0
		91.3	88.3	90.0
	⑩ 話を聞き発表する	77.7	74.8	78.8
		74.8	70.8	70.8
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	94.3	97.5	98.0
		93.9	94.3	94.3
	⑫ 掃除・美化活動	88.5	95.6	94.7
		85.7	85.2	85.0

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 個別指導の徹底

- (1) 個別指導の時間を確保し、チームティーチング等での指導。
- (2) 授業の約束や宿題をきちんとやる等、授業のルールを守る指導。

☆2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間の確保。

☆3 学習に対する態度の育成

- (1) 日常生活や授業における適切な言葉遣いの指導。
- (2) 教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価の機会を増やす。

授業以外の取組

■1 家庭学習の習慣化

- (1) 2 ページ学習帳の活用による家庭学習の時間の確保。
- (2) 家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定して意欲を高める指導。

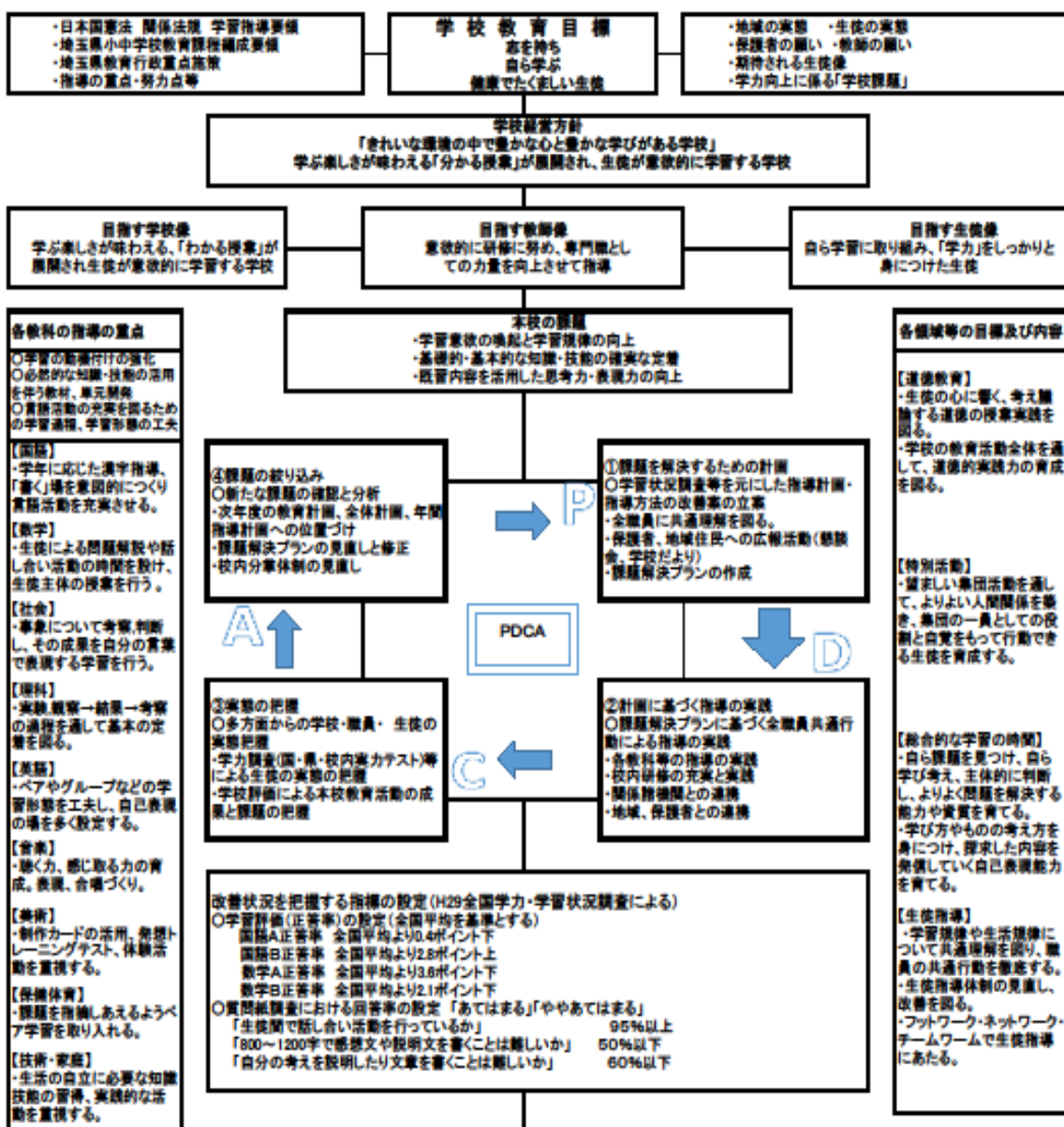
■2 生徒一人一人に合った学力向上に向けての取組

- (1) わからないところをそのままにしないで学習しようとする意欲は、県平均より低い。授業等における個別指導の一層の充実。
- (2) 補習やテスト前に質問日を設定し、わかる喜びを感得させる個に応じた指導。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

学力向上全体計画



	I	II	III	IV
改善の観点	指導内容・指導方針の工夫	教育課程構成上の工夫	学習評価活動の工夫	家庭・地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の豊かな定着とそれを活用する場を設定すると共に、学習形態の工夫をする。	授業時数を確保し、生徒の実態を把握した、指導計画、教材の準備等を計画的に行う。	生徒のよい点や進捗状況の積極的な評価を指導に生かす。	基本的な生活習慣や学習習慣を身につけさせる。学習活動を充実させる。
課題解決のための具体的取組	○学力向上に向けた計画的な取組 ・TT指導、個に応じた指導 ・定期テストへの取組（補習、質問日の設定）	○各教科、各学年の系統的、発展的指導の工夫 ・単元配当調整の工夫 ・思考力・判断力・表現力を高めるための授業展開の工夫改善 ・情報活用能力の育成と情報モラル指導	○年間指導計画に基づいた評価計画の作成 ・学習目標の明確化とシラバスの作成 ・生徒の自己評価や相互評価を生かした評価能力の向上	○家庭への啓発と評価の実施 ・朝の登校指導、あいさつ運動 ・親子読書、西中サポーターズ ・参礼指導（紙面、日山谷、川田谷） ・クリーン活動ボランティア
関連する行事等	・朝読書 ・教育支援担当者訪問 ・学校課題研（道徳）	・校内研修 ・学校課題研究推進委員会 ・教育課程構成委員会	・通知表 ・テスト結果	・学校、学年、学級だより ・授業参観、保護者会、公開日 ・PTA総会、バザー

保護者・地域の皆様へ

本年度の埼玉県学力・学習状況調査の質問紙において、＜けじめのある生活、礼儀正しく人と接することができる、約束やきまりを守ることができる＞の3つの内容で、1学年は12項目中10項目が県平均を上回り、3学年も12項目中11項目において県平均を上回っています。さらに2学年は12項目全てにおいて県平均を上回っています。これらは、生徒一人一人が落ち着いた生活を送り、学習にも前向きに取り組んでいるものと考えます。

本校では、今年度から3か年計画による学校課題研究の取組として「豊かな心を育む道德教育の充実」をテーマに継続して研究を進めています。この中には「考え、議論する道德の実践」が掲げられており、学習における、基礎的・基本的な知識が定着し、思考力・判断力・表現力が身について学習への意欲や学力の向上にもつながることが期待されています。

今後も生徒一人一人が向上心をもち健康に学校生活を送れるように、教育活動を進めてまいります。また、ご家庭との連携を深め、学校と家庭の双方で学習習慣が確立できるような体制を継続してまいります。

生徒は地域や地域の人々との触れ合いからも多様に学んでいます。学校、家庭そして地域において生徒の育成をできるように学校だより等から情報を発信してまいります。